

研究・調査報告書

報告書番号	担当
199	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and symptoms of depression in young adults from 20 countries. アルコール消費量と抑うつ症状：20カ国の青年層を対象とした調査	
執筆者	
O'Donnell K, Wardle J, Dantzer C, Steptoe A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Stud Alcohol. 2006 Nov;67(6):837-40.	
キーワード	
抑うつ、飲酒、国際共同研究、コホート研究	
要旨	
<p>背景： 適度の飲酒者は非飲酒者よりも精神的健康状態がよく、飲酒と抑うつとの関連には U カーブ・Jカーブ現象が認められることが、中高年層を対象とした調査で示されている。</p> <p>目的： 中高年の男女でみられる飲酒と抑うつ症状の非線形の関連が青年層でも認められるかどうか、また、それが文化・社会経済的状態・健康状態と関連しているかどうかを検討した。</p> <p>方法： International Health and Behavior Survey の対象者である 20 カ国の大学生 (17-30 歳、男性 6932 名、女性 8816 名) のデータを用いた。アルコール消費量は週の飲酒回数、1 回の飲酒量から算定され、抑うつは Beck 抑うつ尺度 (BDI) により評定された。分析は国により集団化された変数を調整して行われた。</p> <p>結果： BDI が上昇しているものの割合は、非飲酒者で 19.3%、中程度飲酒者で 16.3%、多量飲酒者で 20.0%であった。性・年齢・生活環境・社会経済的状態・健康状態の自己評価を調整した非飲酒者のアルコール消費量による BDI 上昇リスクは、中程度飲酒者の 1.22 倍 (95%信頼区間: 1.06-1.42) であった。過去 2 週間に摂取したアルコール飲料の数に基づいた分析では、5-13 のアルコール飲料を摂取したものを基準とした場合、非飲酒者の BDI 上昇リスクは 1.25 倍 (95%信頼区間: 1.02-1.53) であった (同共変量を調整)。多量飲酒者も非飲酒者と同様に、中程度飲酒者と比して、BDI 上昇リスクが高く、アルコール消費量で算定した場合のオッズ比は 1.32 (95%信頼区間: 1.12-1.57)、摂取したアルコール飲料の数で算出した場合のオッズ比は 1.50 (95%信頼区間: 1.26-1.78) であった。</p>	
結論：	
<p>西洋諸国で示されてきたアルコール消費量と抑うつ症状との U カーブ現象は、本研究の対象である多くの異なった文化的背景を有する青年層においても認められた。この関連は健康状態や社会経済的背景、性・年齢の相違によりもたらされるものではないと考えられた。</p>	